



ヨルダン ウム・カイスの発掘調査

列柱道路の保存と修復



写真上：聖域入口の列柱
写真下：ヘライレイデス浴場入口のイオニア式柱

2011年5月9日（月）～7月20日（水）

10:00~16:00 入場無料

閉室：日祝日

（ただし6/5（日）、7/17（日）のオープンキャンパスは開室致します）

国土舘大学イラク古代文化研究所展示室

世田谷区梅丘 2-8-17 地域交流文化センター 2 F

03-5451-1926 iraqproj@kokushikan.ac.jp

小田急線梅ヶ丘駅 徒歩 9分 / 東急世田谷線松陰神社前駅 徒歩 9分もしくは世田谷駅 徒歩 6分

列柱道路の保存と修復

ウム・カイス遺跡の文化遺産を紹介する企画展も第三回を迎えることとなりました。前回のコインと文字瓦博展に続き、ウム・カイスとその周辺地域のローマ時代の柱に注目した企画展を開催いたします。ウム・カイスの柱には、柱の中央下部を上下の直径よりも太くしたエンタシスが見られます。エンタシスは、法隆寺に用いられている柱にも見られ、シルクロードを経由して伝承しているといわれていますが、真意のほどは結論が出ていません。このエンタシスの実物大柱模型を今回は制作し、展示します。

柱の構成をオーダーと呼び、最下段のペダスタル（基壇）、ベース（土台）、ドラム（柱部）、キャピタル（柱頭）から成っています。キャピタルは柱部の上に載り梁を支える部材で、透かし彫りのアカンサスを模した彫刻が施されています。ウム・カイスで見つかるこれらの柱を構成する部材をパネルにてご紹介いたします。また、ヨルダンのジェラシュやアンマン城、シリアのバルミラ遺跡の柱もパネル展示します。

ウム・カイス遺跡の柱は建設当時の姿を留めているものはありません。現在、立っている柱は修復したもので、建設当時の本数からするとほんの一部です。大多数の柱部材は横たわったまま地上に露出、あるいは地中に埋没した状態です。これを建て直し、修復することを最終的な目標としています。近年立てた柱のパネルも展示しています。



フォルム 南東の列柱郭（パリススタイル）



ウム・カイスの列柱道路（デクマヌス・マキシムス）



八角堂教会



発掘区出土のモザイク床



発掘風景

文化遺産を守るために

国士館大学イラク古代文化研究所は、設立以来30年以上、メソポタミア研究に携わってきました。しかし近年のイラクは戦火による混乱が続き、文化遺産の略奪・盗掘が頻発しています。

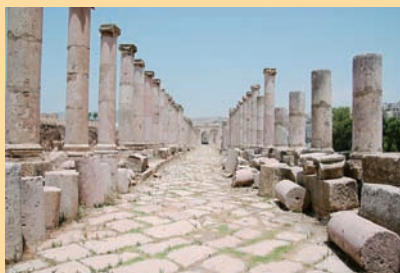
2004年から日本の国際協力機構（JICA）がユネスコのイラク文化遺産保護国際調整委員会の提案を受け、ヨルダンにてイラク人の文化遺産に関する研修を行うべく動き出し、国士館大学はこの事業に全面的に協力しました。さらにヨルダン考古局から、事業の実施場所としてウム・カイス遺跡が提供され、2005年以降、実際の発掘を含む研修プログラムを実施しています。

同様の趣旨でイラク古代文化研究所を中心に、2つの文化遺産研究プロジェクトが始動しました。ひとつは文部科学省に採択された平成17（2005）年度から5年間にわたる私立大学学術研究高度化推進事業、もうひとつは平成17（2005）年度国士館大学研究教育支援プログラムで、どちらも「戦後イラクの社会基盤復興に活かす文化遺産学研究」を課題とし、文化遺産学の擁立とイラクの文化遺産復興に寄与することを目標にしています。

興味関心ある方々とともに古代の文化遺産と向き合い、学び、文化遺産を未来に永く伝える努力をしていきたいと願っています。

国士館大学イラク古代文化研究所・教授
「国士館大学文化遺産研究プロジェクト」代表 松本健

ウム・カイス周辺の柱（ヨルダン）



ジェラシュの列柱道路



アンマン城のヘラクレス神殿

交通案内

- ・小田急線梅ヶ丘駅下車 徒歩 9分
- ・東急世田谷線松陰神社前駅または世田谷駅下車 徒歩 6分
- ・渋谷駅南口バス乗場 18番「世田谷区民会館行」バスで終点下車 徒歩 3分

お問合わせ

国士館大学イラク古代文化研究所展示室

〒154-0022

世田谷区梅丘 2-8-17 地域交流文化センター 2F

tel : 03-5451-1926 fax : 03-5451-1927

email : iraqproj@kokushikan.ac.jp

URL : <http://www.kokushikan.ac.jp/research/ICSAI/index.html>

